

近年、糖尿病は世界規模で増加している疾患であり、日本も同様の傾向にあります。糖尿病という、一般的に中高年の病気と

県立看護大学 母性看護学・助教

天谷 まり子

は服用できません。そして、妊娠維持のすべてを行うことは、時に困難が伴うことがあります。そのため、妊娠・出産の当事者となる女性だけではなく、ご家族や地域全体で生活習慣に目を配り、お互いに糖尿病を予防または改善できるような環境を整えることも大切なのだと考えています。

## 妊娠糖尿病に気を付けて

いう印象をお持ちかもしれませんが、妊娠・出産をする女性には妊娠糖尿病が増えています。

まず、妊娠・出産にまつわる糖尿病には、1型糖尿病や2型糖尿病等の

は、妊娠時に診断された中12人と、改訂前より明らかに糖尿病は除外さよそ4倍に増加したと示されています。この二つのう

善することがほとんどですが、将来2型糖尿病になりやすいことから長期にわたる注意が必要で

妊娠前から存在しているが、妊娠糖尿病です。妊娠糖尿病はGDM (gestational diabetes mellitus) とも呼ばれ、2010年に国際的な妊娠糖尿病診断基準統一の提言に伴い、日本の診断基準が改訂されました。ある調査によると、その患者数は、妊婦100人の危険性があり、妊娠中は服用できません。そして、妊娠維持のすべてを行うことは、時に困難が伴うことがあります。そのため、妊娠・出産の当事者となる女性だけではなく、ご家族や地域全体で生活習慣に目を配り、お互いに糖尿病を予防または改善できるような環境を整えることも大切なのだと考えています。

ち、より多くみられるのこの妊娠糖尿病を合併した場合は、母体と胎児にわたる注意が必要であるといわれています。

この妊娠糖尿病を合併した場合は、母体と胎児にわたる注意が必要であるといわれています。

妊娠前から存在しているが、妊娠糖尿病です。妊娠糖尿病はGDM (gestational diabetes mellitus) とも呼ばれ、2010年に国際的な妊娠糖尿病診断基準統一の提言に伴い、日本の診断基準が改訂されました。ある調査によると、その患者数は、妊婦100人の危険性があり、妊娠中は服用できません。そして、妊娠維持のすべてを行うことは、時に困難が伴うことがあります。そのため、妊娠・出産の当事者となる女性だけではなく、ご家族や地域全体で生活習慣に目を配り、お互いに糖尿病を予防または改善できるような環境を整えることも大切なのだと考えています。